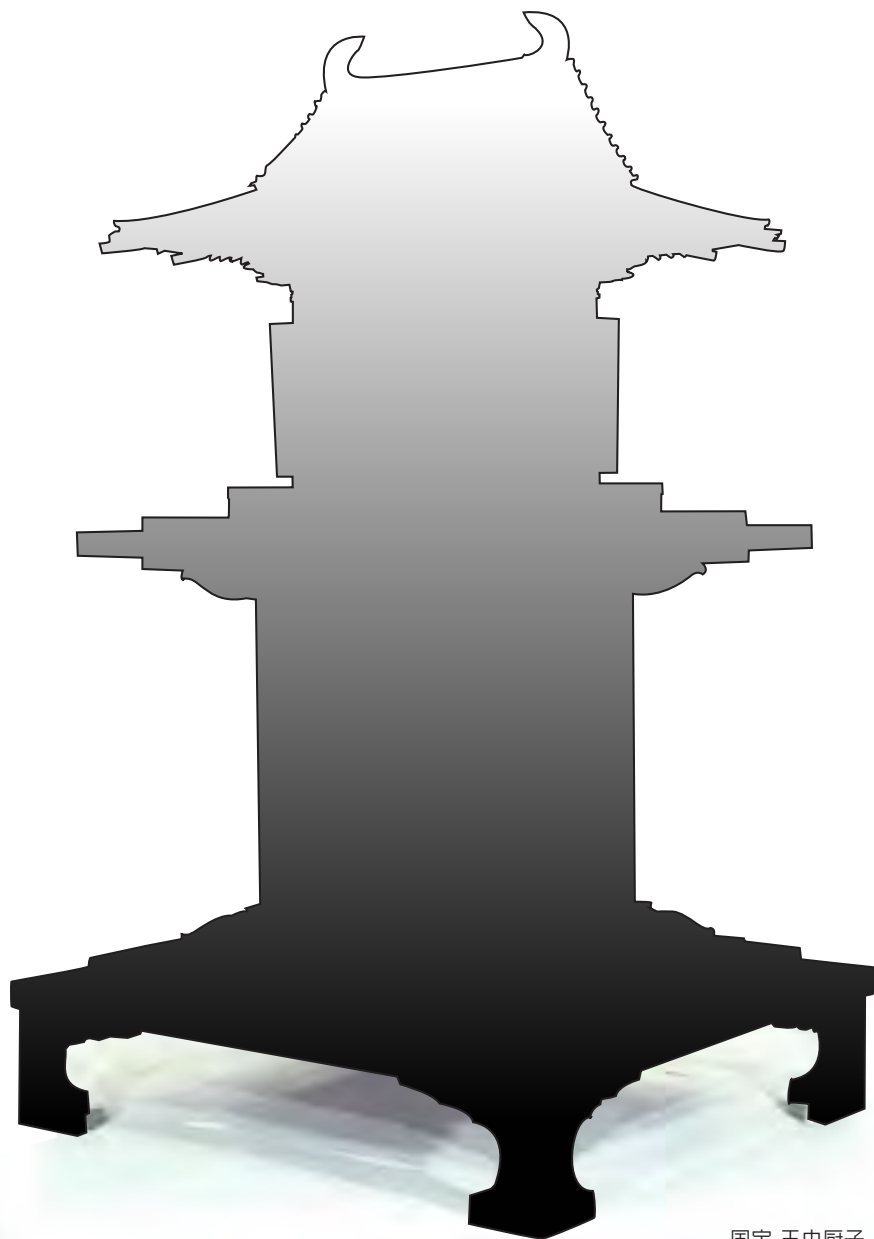


# 石川県立美術館だより

平成20年4月1日発行 第294号

玉虫厨子がやってくる



リニューアルオープンは9月

国宝 玉虫厨子  
写真提供:奈良国立博物館

**予告** リニューアルオープン記念展

## 法隆寺の名宝と聖徳太子の文化財展

9月20日<sup>土</sup>～10月24日<sup>金</sup>

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

# 旧兼六園広坂休憩館の改修活用にあたって

館長 嶋崎 丞

兼六園に入園された方々の休憩場所として、また兼六園にゆかりのある各種文化講座や茶会などに活用されてきた兼六園休憩館が、四月一日より美術館の所管となり、美術館活動の一環として運用することになりました。

ご承知の方も多いと思いますが、この建物は、旧陸軍第九師団長官の官舎として大正十一年に建設されたもので、戦後は一時期児童会館として使用するため増築されましたが、長官官舎であった部分は、よく旧態を残しています。背面の広い芝生広場や、その向こう側に見える江戸時代の本多家上屋敷庭園の

築山や樹木の一部が見事に残っており、文化の森の名称にふさわしい景観を見せています。

さてこの施設の活用方法ですが、兼六園休憩館時代に利用して頂いた方々は原則としてそのまま利用して頂くと思っています。

ご存知でない方のために施設の概要を紹介しますと、旧長官官舎であった部分には、長官室、会議室、応接室、和室等があり、この部分は出来るだけ復元保存に努めたいと考えています。これ等各室は、いろんな会合の場にご利用して頂ければと思っています。

和室はすでに百万石茶会などに利用して頂いていますが、水屋の位置が逆勝手で使いづらいとのこと意見があり、このたびの改修で手直しして使い勝手が良くなりました。

児童会館時代に野鳥園として増築された部分は、休憩館時代に九十名収容のホールとして改修され、現在は、各種講座や集会、兼六園へやってきた団体系の昼食の場として利用されていますが、今後はさらに美術文化活動発表の場として、個人や小グループ、学校団体等に活用して頂くと考えています。そのために作品展示用の壁面パネルも用意しました。さらに美術文化を幅広くとらえ、生け花、盆栽、手



休憩館ホール

芸など、あらゆるジャンルに対応運用すべきと考えています。

さて施設の利用方法ですが、和室は使用料を定めており納入していただくこととなりますが、他のすべての部屋の利用は無料となっています。利用期間は一日から最高一週間を目途としています。開館時間や休憩日をどうするかということですが、美術館と歩調を合わせるべきかと考えています。

また美術館で実施することが出来なかつた実技を中心とする講座や、工芸品に直接手を触れて鑑賞する体験学習講座なども、和室で実施することが出

来ないかと検討しています。

施設の名称は、長い間広坂休憩館のネーミングを使用してきたため馴染みがあり、美術館のリニューアルオープンまでは、とりあえず「石川県立美術館広坂休憩館」でいこうということになりました。施設にふさわしい名称があれば七月末日までに、その理由を書いてはがきでお寄せ下さい。すばらしい名称があれば採用したいとも考えていますが、日本語に限定したいと思います。この施設が文化の森の活動の拠点の一つとして大いなる役割を果たすべく、多くの方々のご利用をお待ちしています。

なお和室を茶会としてご利用していただく方々のために、茶の湯の道具のご寄附をお願いしています。お手許で眠っている道具や、制作された作品など、ご協力賜れば幸いです。

■ご利用についてのお尋ねは

石川県立美術館広坂休憩館

電話／〇七六一三二一八八二〇

または

石川県立美術館総務課

電話／〇七六一三二一七五八〇

まで



休憩館外観

# 各地で注目の展覧会

ゴールデンウィークを中心に

## ◆「長谷川等伯展」

久蔵の国宝「桜図」特別公開

石川県七尾美術館

4月5日(土)～5月6日(火・休)

平成八年から毎年開催の「長谷川等伯シリーズ展」の十三回目。等伯の後継者として「清雅父にまさる」といわれながらも二十六才で夭逝した長男・久蔵の人氣作国宝「桜図」を特別公開します。その他にも七点が七尾初展示となり、見逃せません。



## ◆「ウルビーノのヴィーナス」

国立西洋美術館

3月4日(火)～5月18日(日)

本展の目玉は、館外に貸し出されることも極めて希なウフィツィ美術館の至宝「ウルビーノのヴィーナス」。盛期ヴェネツィア派の代表的画家ティツィアーノの代表作です。その他イタリア各地から集められたヴィーナスを主題とする約七十点を展示します。

## ◆生誕100年「東山魁夷展」

東京国立近代美術館

前期 3月29日(土)～4月20日(日)

後期 4月22日(火)～5月18日(日)

※前期後期で展示替えがあります。

長野県信濃美術館東山魁夷館  
7月12日(土)～8月31日(日)

戦後日本画界を代表する風景画家東山魁夷の生誕百年を記念する展覧会です。代表作百一点とスケッチ秀作五十三点を出品する過去最大の回顧展となります。

## ◆「国宝大絵巻展」

九州国立博物館

前期 3月22日(土)～4月28日(月)

後期 4月29日(火・祝)～6月1日(日)

※前期後期でほとんどの作品を入れ替えます。

絵巻は日本において豊かな展開を遂げた美術の代表例です。京都国立博物館所蔵、寄託品のうち国宝九件重文十四件を含む二十六件併せて約一五〇場面を展示します。

## ◆「イタリア美術とナポレオン」

札幌芸術の森美術館

4月15日(火)～5月25日(日)

ポッティチエツリ作「聖母子と天使」をはじめ、ナポレオンの生地コルシカ島フェツシユ美術館コレクション六十点をまわりを日本初公開します。

# 友の会よりお知らせ

例年、この時期に友の会より新年度会員の募集についてお知らせしており、そのことについてお尋ねもございますので、以下ご説明いたします。

### ◆会員期限について

前年度入会の際にご案内したとおり、当館リニューアル工事に伴い現在友の会会員の方は平成十九年度・二十年度に限り二年会員となります。したがって現在友の会会員の方は今回に限り継続のお手続きは必要ございません。会員証も平成二十一年三月まで有効ですので、なくさないよう保管下さい。

### ◆会員特典について

会員証の裏面に記載の通り、提携施設の割引特典を受けることが出来ます。リニューアル開館後は当館でのコレクション展鑑賞も無料になります。また主催展覧会は団体料金なみに割引されます。

### ◆新規入会をお申し込みの方

新に友の会に入会を希望される方も入会することが出来ます。ただし、年度会員制ですので平成二十一年三月までの有効期限となっております。(当館はリニューアル工事により本年九月

### ◆美術館だよりの発行について

毎月、この美術館だよりは発行します。九月号までは現在の四ページ立て、十月号より以前の八ページ立てにもどる予定です。

# 行事案内

四月は行事を予定しておりません。五月より講座等を開催いたします(詳細は次号掲載)。会場は石川県立美術館広坂休憩館となります。生涯学習センターではございませんのでご注意ください。

■石川県立美術館広坂休憩館 金沢市出羽町三一

# 法隆寺の名宝と聖徳太子の文化財展

九月には開館二十五周年とリニューアルオープンを記念して「法隆寺の名宝と聖徳太子の文化財展」が開催されます。そこでこれから毎月、特別展の出品作品などを紹介していきます。

## ① 法隆寺

聖徳太子ゆかりの法隆寺は、現存する世界最古の木造建築として知られています。金堂や五重塔など国宝の建造物は十八件にのぼり、仏像などの美術工芸品では国宝が二十件、重要文化財は一二〇件を超えています。平成五年には、日本で最初の世界遺産に登録されており、歴史の教科書でも馴染みのわが国を代表する仏教寺院です。

今回の展覧会では、これらの文化財の中から「玉虫厨子」「黒漆螺鈿卓」「太刀(直刀)」という三件の国宝を公開します。ほかに仏像・絵画・工芸品など重要文化財

が五十三件出品され、法隆寺からの出品総点数は一一一件となります。

法隆寺の歴史は、聖徳太子創建の寺に遡ります。聖徳太子が住まれた斑鳩宮に隣接して建てられた寺で、古くは斑鳩寺と称していました。本格的な仏教伽藍としては飛鳥寺に次いで古く、太子の仏教興隆にかけた思いと先進文化摂取への積極的な意図を読み取ることができます。『日本書紀』によれば、この斑鳩寺は天智天皇九年(六七〇)に火災で焼失したと伝えられます。ところが現存の法隆寺は、金堂に推古三十一年(六三三)銘の釈迦三尊像を安置しており、飛び抜けて古い建築様式を示しています。また法隆寺の公式記録である「法隆寺伽藍縁起并流記資財帳」に火災の記事がないことから、焼失後に再建したとする再建説と、聖徳太子建立のままとする非再建説が長く対立してきました。

この議論は昭和十四年の調査でおおよその決着が付ききました。西院伽藍の東南隅にあたる若草という場所から塔と金堂を前後に並べた伽藍の跡が発見されたのです。出土した瓦からもその地が創建の斑鳩寺であると判断され、以後若草伽藍＝斑鳩寺説が通説となりました。

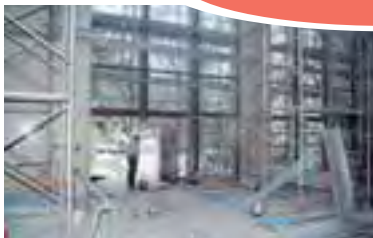
現在の法隆寺は、金堂・五重塔などが並ぶ西院伽藍と、夢殿を中心とした東院伽藍とで構成されています。十数年前に当館で公開した「百済観音」は、新たに建設された大宝蔵殿の中心、百済観音堂に安置されています。日本美術の原点ともいえる法隆寺の名宝を、この機会にぜひともご覧下さい。



日々事務室を悩ましていた削岩機の音も遠くなり、工事がかなり進んでいる模様です。

- ・重機が前庭を占領中(下)
- ・1F階段を壊しエスカレータにします(左上)
- ・面影がありますか? 1Fロビー(左下)

リニューアル進行中!



## 次回の展覧会

石川県立歴史博物館が会場になります

4/19(土)～5/18(日)

## 九谷の流れ I

— 古九谷・再興九谷 —

石川県立美術館だより 第294号  
2008年4月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号

Tel:076 (231)7580 Fax:076 (224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp>